

区分・種別	県指定有形文化財（絵画）		
名 称	けんぼんちやくしよくくまのまんだらず 絹本着色熊野曼荼羅図 1幅		
所 在 地	西予市宇和町		
所 有 者	明石寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和40年4月2日		
解 説	<p>古来熊野修験の道場として繁栄した明石寺（現天台宗寺門派）に所蔵されている絵画で、縦98.5センチメートル横38.5センチメートルの絹本着色の掛軸である。作者や制作年は明らかでないが室町時代の作とされている。</p> <p>曼荼羅図は、諸仏・菩薩および神々を配置して宇宙の本質・真理・精髓を表し、真言密教で説く悟りの境地を図画したもので、これを崇拝の対象とし、また一つの対象に心を集中して深く観察する観想の対象とした。</p> <p>この曼荼羅図は、熊野三山と那智の滝を描いて那智権現<small>なちのごんげん</small>を象徴し、中央の円相<small>えんそう</small>（悟りの対象）に本地仏と熊野神を図し、円周には中台八葉院<small>ちゅうだいはちよういん</small>に基づく仏尊を配し、さらに一定の法則に従って諸仏諸神の図様が描かれ、「熊野曼荼羅」の特徴をよく示している。明石寺における地方修験者の修行信仰を伝える画幅である。</p>		

